

7. 図書・出版・情報・広報

(1) 図書

a. 図書資料購入費・受入冊数

2013～2018 年度における、センターの予算による図書購入費と受入冊数は下表のとおりである。2013 年度以降資料費は大幅に減少し、年間 2,000 万円台のなかば以下を上下している。2006～2012 年度においては、資料購入費の過半が科研費その他のプロジェクト経費からまかなわれていたが、これらの経費からの図書購入は大幅に減少し、運営交付金支出が最大の財源となった。購入費減少の割に受入冊数が減っていないように見えるのは、購入以外に、寄贈資料、および製本して資産登録された雑誌の数を含むためである。また、市場環境の変化もあって、マイクロ資料の購入は大幅に減少している。

2013-2018 年度の図書資料購入費・受入点数

(単位：千円)

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
資料費総額	22,905	21,881	21,690	25,955	20,907	24,294
運営費交付金・図書費	16,343	19,856	18,587	18,138	17,810	19,874
科研費	1,949	1,967	2,227	4,942	2,673	3,468
その他	4,612	58	876	2,876	425	954

(単位：冊)

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
受入総数	4,019	3,006	2,951	3,686	4,329	2,981
和書	313	661	568	371	222	185
洋書	2,941	2,232	2,270	3,139	4,034	2,762
マイクロ資料	741	99	99	166	69	21
その他	24	14	14	10	4	13

b. 図書室利用者数・貸出数

図書室利用者数、および資料貸出数は減少傾向にある。ただし、学外者の利用はあまり減っていない。利用者減少の理由としては、大学院生その他センターを含め学内者の利用減少が大きい。センター図書室に暫定排架されていた一般図書、製本雑誌・新聞等のかかなりの部分が附属図書館本館書庫に移動したことも、利用者と貸出が大幅に減った背景にあると考えられる。

2013-2018 年度の利用者数、貸出数

(単位：人)

	入室者数（延べ）	学外利用者数（延べ）	館外貸出点数	うち学生・大学院生
2013 年度	796	272	501	198
2014 年度	576	192	224	31
2015 年度	708	228	172	52
2016 年度	471	225	81	17
2017 年度	529	217	88	9
2018 年度	375	177	47	29

c. 主な収集資料

2013 年度からの 6 年間で、1995 年度から継続収集しているソ連邦共産党・国家文書のマイクロフィルムを 240 リール追加した。

その他、センター図書室では次のような資料を収集した。

The History of Modern Russian and Ukranian Art, 1907-1930. Part 2. (マイクロフィッシュ)

『信仰と理性』1884-1916 年(マイクロフィッシュ)

『カフカス集成』1876-1912 年(リプリント)

『チェコスロヴァキア日刊新聞』(マイクロフィルム)

参謀本部作成樺太 2 万 5 千分の 1 地図

『イルクーツク県報知』1857-1919 年(電子版)

『トムスク県報知』1857-1917 年(電子版)

『農業経済の道』1925-1936 年(マイクロフィルム)

『北極研究所紀要』1-78 巻, 1932-1937 年(マイクロフィルム)

『北極の諸問題』、『北極・南極の諸問題』1937-1975 年(マイクロフィルム)

など。

7. 図書・出版・情報・広報

d. 附属図書館目録における「SLV(スラブ・コレクション)」の表示

附属図書館本館の耐震改修(2009～2011年度)に伴って資料配置が変更され、「スラブ・コレクション」から欧文図書が切り離されて混排されることになった。これに当たって、センターが収集し本館に排架する欧文・露文の図書・新聞・雑誌について、図書館目録上「SLV(スラブコレクション)」の表示を付加し、そのデータをグループとして抽出できるようにすることで附属図書館と合意し、2013年より運用が開始された。

また、2013年8月以降資料の流れを切り替え、特別の指定のない限り、センター図書室の収集した図書資料は初めから附属図書館に排架されることになった。

e. 遡及入力とその中断

センターの蔵書中、マイクロ資料を中心に目録の電子データ化がなされていない資料が一部に存在する。また、その一部は大学の法人化に際して資産として承継されていない問題があった。図書室では、これらの資料の一部について目録入力作業を独自に進めた一方、附属図書館において遡及入力作業の対象とすることを要望し、2013-2018年度に2585点の資産再登録と目録作成が行なわれたが、ここで中断された。

f. ウェブサイトによる画像資料の公開

図書室では2008年以降、ロシア極東とその周辺の歴史を中心に、古写真・古地図等の画像やデータを紹介するウェブサイトを活用している。2013-2014年度に、日露戦争期から第二次世界大戦前にかけてのサハリンを中心に収録内容を増強した。

g. 雑誌目次データ作成

2016年度以降、目次データの作成・利用が進んでいない雑誌について、独自に目次データをエクセルファイルで作成し、頒布することを行っている。

2018年度までに作成した雑誌は、『殖民公報』(1901～1921年)、『ソ連問題研究』(1952年)、『ソ連研究』(1952～1962年)、『満蒙経済事情』(1916～1920年)、『満蒙之文化』(1920～1923年)、『哈爾濱商品陳列館報』(1919～1920年)、『露亜時報』(1920～1932年)、『亜細亜評論』(1917～1921年)、『窓』(1972～2005年)である。

(2) 出版

レフェリー制の雑誌としては、従来からの『スラヴ研究』と *Acta Slavica Iaponica* に加えて、センターにおけるグローバル COE プロジェクト「境界研究の拠点形成」(2009～2013 年度)の実施に関連して、『境界研究』と *Eurasia Border Studies* を刊行するようになった。ディスカッション・ペーパーとしては、従来の『スラヴ研究センター研究報告シリーズ』に代わり、2008 年から『スラブ・ユーラシア研究報告集』を刊行している。

書籍としては、従来からの *Slavic Eurasian Studies* に加えて、出版社とのタイアップでいくつかのシリーズを刊行した。そのうちの 1 つは、北海道大学出版会との提携による『スラブ・ユーラシア叢書』である。これは、センターにおける研究成果を幅広い市民の皆さんに知ってもらうことを目的として、刊行が始められた。センター内に叢書刊行委員会が設けられ、その審査を通ったものが出版される。基本的には、センターの教員が著者・編者になったものが出版の候補となる。このほか、新学術領域研究の成果がミネルヴァ書房との連携で 6 巻本として刊行が完了した。外国の出版社との連携としては、Routledge 社からの 2 冊の他、国際的巨大大プロジェクト Russia's Great War & Revolution の成果論集が Slavica Publishers 社より 1 冊刊行された。

a. レフェリー制の雑誌

・『スラヴ研究』

和文学術雑誌。論文には数ページの英語またはロシア語の要約が付く。投稿の資格制限なし。年 1 回刊行。

巻号 (年)	61 (2014)	62 (2015)	63 (2016)	64 (2017)	65 (2018)
投稿数	6	15	10	13	9
うち採択数	4	11	4	6	3

・*Acta Slavica Iaponica*

欧文学術雑誌(英語またはロシア語)。投稿の資格制限なし。年 1 回刊行。

巻号 (年)	35 (2014)	36 (2015)	37 (2016)	38 (2017)	39 (2018)
採択率	8/14	6/16	12/21	12/21	16/24
うち論文	5/10	4/13	6/15	6/15	4/12

・『境界研究』

境界研究の和文学術雑誌。投稿の資格制限なし。年 1 回刊行。

巻号 (年)	特別号 (2014)	5 (2015)	6 (2016)	7 (2017)	8 (2018)
投稿数	8	6	6	6	6
うち採択数	7	5	4	5	5

7. 図書・出版・情報・広報

•Eurasia Border Review

境界研究の英文学術雑誌。投稿の資格制限なし。2015年から年1号体制に変更

巻号 (年)	Vol. 5 No. 1, No. 2 (2014)	Vol. 6 No. 1 (2015)	Vol. 7 No. 1 (2016)	Vol. 8 No. 1 (2017)	Vol. 9 No. 1 (2018)
投稿数	15	7	8	9	6
うち採択数	13	6	6	8	6

b. センターで出版されたその他の出版物数

シリーズ名／年度	2014	2015	2016	2017	2018
スラブ・ユーラシア叢書	0	1	0	0	0
Slavic Eurasian Studies (欧文、21世紀COEプログラムの欧文論文集として発刊し、プログラム終了後も継続。表の下に一覧)	2	2	1	2	2
スラブ・ユーラシア研究報告集 (欧文／和文、『スラブ研究センター研究報告シリーズ』の趣旨を受け継いだディスカッション・ペーパー)	2	1	1	2	2
計	4	4	2	4	4

•Slavic Eurasian Studies

No.34 Славянская микрофилология 2018

No.33 Comparing Modern Empires: Imperial Rule and Decolonization in the Changing World Order 2018

No.32 SRC at 60 New Historical Materials and Perspectives 2017

No.31 SERBICA IAPONICA: Допринос јапанских слависта српској филологији 2017

No.30 Perspectives on Contemporary East European Literature: Beyond National and Regional Frames 2016

No.29 Transboundary Symbiosis over the Danube : II Road to a Multidimensional Ethnic Symbiosis in the Mid-Danube Region 2015

No.28 The Serbian Language as Viewed by the East and the West: Synchrony, Diachrony, and Typology 2015

No.27 Transboundary Symbiosis over the Danube: EU Integration between Slovakia and Hungary from a Local Border Perspective 2014

No.26 Slavic and German in Contact: Studies from Areal and Contrastive Linguistics 2014

c. 出版社とのタイアップで発売された出版物

•スラブ・ユーラシア叢書

(スラブ研究センターの研究成果、北海道大学出版会刊 和文)

『北西ユーラシアの歴史空間:前近代ロシアと周辺世界(スラブ・ユーラシア叢書 12)』小澤実、長縄宣博編著、2016年

・シリーズ・ユーラシア地域大国論

(新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」の研究成果 ミネルヴァ書房 和文 各班から全6巻刊行:第1巻と第2巻は2013年3月に刊行)

『シリーズ・ユーラシア地域大国論 3 ユーラシア国際秩序の再編』

岩下明裕編著、2013年12月

『シリーズ・ユーラシア地域大国論 4 ユーラシア近代帝国と現代世界』

宇山智彦編著、2016年2月

『シリーズ・ユーラシア地域大国論 5 越境者たちのユーラシア』

山根聡、長縄宣博編著、2015年12月

『シリーズ・ユーラシア地域大国論 6 ユーラシア地域大国の文化表象』

望月哲男編著、2014年3月

Russia's Great War & Revolution Series, vol. 4, Russia's Great War and Revolution in the Far East: Re-imagining the Northeast Asian Theater, 1914–22

出版年:2018年

編者:David Wolff, Shinji Yokote, and Willard Sunderland

発行元:Slavica Publishers

Russia's Far North: The Contested Energy Frontier

出版年:2018年

編者: Veli-Pekka Tynkkynen, Shinichiro Tabata, Daria Gritsenko, Masanori Goto

発行元:Routledge

Eurasia's Regional Powers Compared – China, India, Russia

出版年:2015年

編著:田畑伸一郎

発行元:Routledge

(3) 情報（ウェブサイト）

センターは 1996 年 4 月にウェブサイトを開設して以来、その内容を次第に充実させ、シンポジウム・研究会や公募情報等の迅速な案内、シンポジウム・ペーパーの事前掲載(パスワードつき)、さまざまなデータベースの公開といった取り組みを他の研究機関に先駆けて行ってきた。特に、センターが刊行する雑誌・論文集・研究報告集等全文の PDF 版掲載は、国内外の研究者に好評であり、センターの研究成果が広く利用・引用されることを助けている。

本ウェブサイトの特徴の一つとして、多言語対応が挙げられる。センターの性格上日本語、英語はもとよりロシア語を主たる研究上の言語として使用する研究者も多く、現在のように日本でも UTF-8 が標準的に使用されるようになる以前から、多言語対応に向けた取組を実施している。現在ウェブサーバー上では、日本語、英語、ロシア語、中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、アラビア語、アゼルバイジャン語、アルバニア語、アルメニア語など、スラブ系言語を中心に周辺国の言語も合わせて 45 カ国語をサポートしている。

センターのホームページの中で利用頻度の高いデータベースとして、「中東欧・旧ソ連諸国の選挙データ」がある。これは仙石がセンターに赴任する前の、2009 年度および 2010 年度のスラブ研究センター「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究(プロジェクト型)」をもとに作成が開始されたもので、仙石がセンターに赴任したことにより現在も引き続き改訂が進められている。このデータは対象諸国の国会議員選挙、大統領選挙、欧州議会議員選挙の結果を、選挙規則や政党に関する基礎情報とあわせて公開するもので、国内では唯一、世界的にも類例が少ない。またデータについては、視覚的に見やすいように整理したものとエクセルのファイルの 2 種類を提供し、データのさまざまな利用目的に対応できるようにしている。

(4) 広報

a. スラブ・ユーラシア研究センターニュース

1) 和文

1979年に創刊された。当初はシンポジウムのお知らせ、外国人研究員の来日や図書室だよりを、ごく簡単に数ページ程度で伝える程度だったが、ほどなく年4回の季刊となり、行われたシンポジウムの模様、エッセイ、学界短信など、豊富な写真とともに掲載されるようになり、ページ数は20ページ程度に増えた。その時々センターの活動を把握できる重要な資料となっている。主な大学図書館や、共同研究員などに約800部配布され、スラブ・ユーラシア研究者間のコミュニケーションに役立てられている。

2) 英文

1993年に創刊された。年1回刊行。当時の外国人研究員 Löwenhardt 氏の発案「これほどの研究センターに英文のニューズレターがないのはおかしい」による。内容は、当初、センター長のあいさつ、外国人研究員の紹介、図書室だより、出版された本のリストなど数ページから始まったが、現在はエッセイ、シンポジウムの様子などが多くの写真とともに加わり、ページ数は20ページ程度である。外国のスラブ・ユーラシア研究関係諸機関、過去の外国人研究員などに約400部発送され、センターの広報に役立っている。

b. スラブ・ユーラシア研究センター (SRC) メールマガジン

センターが関わる研究活動やその最新の成果などを、広く共有してもらうために、2009年2月、当時のセンター長の発案でメールマガジンを立ち上げることになった。月1度センター内部のスタッフ全員と共同研究員他各種研究員、希望者など約500人に送信している。内容はおもに、特別プロジェクトを含むセンターが関わる行事の予定、本の刊行、各種募集、エッセイなどで、それぞれの簡潔な概要とウェブサイトへのリンクを載せている。

また、2017年からSNS(フェイスブック・ツイッター)による情報発信を開始した。